

地域おこし協力隊 活動レポート

総集編



地域おこし協力隊
(現 地域プロジェクトマネージャー)
たかはた まさひこ
高島 正彦

▶ 問い合わせ
農林水産課 ☎ 73-3040

令和元年6月に薬用作物栽培の推進をミッションとして、三豊市の地域おこし協力隊として赴任して以来約3年の任期を終え、この3月で協力隊を卒業しました。

右も左もわからない中でのスタートから、あっという間の3年間でしたがその間多くの方と出会い、多くの方に支えられ、少しずつ薬用作物栽培の輪が広がってきました。ただ、私自身が何かをしたというよりも、さまざまな場面で人を得て、そこから人の広がりが生まれ、また新たな人を得るという繰り返しが原動力であったと思います。

協力隊としては卒業ですが、引き続き三豊市に在住し薬用作物栽培を推進する仕事を続けることになりましたので、3年間を振り返りながら皆様への感謝の意をお伝えするとともに、現在三豊市で取り組んでいる薬用作物についてご紹介いたします。

3年間の活動記録

1年目の軌跡

赴任当時、市内で薬用作物を栽培していた方はお二人だけでした。そこでまず取り組んだのは、薬用作物の栽培に興味をお持ちの方を探し、栽培に関する正しい説明を実施することでした。唯一の手掛かりは、その年の2月に開催された薬用作物をテーマにした講演会参加者のうち「興味あり」と思われる40名のお名前でしたので、全ての方を訪問・面談しました。

同時に信頼できる買い取り先を確保するために、漢方製剤メーカーと太いパイプを持つ高知の農事法人を訪ね、栽培品目の選定や栽培暦、商・物流の確認などを行い、同時に創業300年の歴史を持つ奈良の生薬問屋さんとの関係も構築し、複数の販路を確保することで栽培品目の選択肢を増やし、取引の対等性を保持できるようにしました。

その結果、11農家13名の栽培者さんと令和2年2月より栽培を開始し、栽培品目は春に種を蒔き冬に根を収穫する三島柴胡、苗木を定植しダイダイの未成熟果実を生薬として用いる枳実を選びました。



▲地元の農家さんの畑で苗植え研修を行いました



▲地元の農家さんが育てた薬用作物「三島柴胡」の根



▲生薬として用いられる枳実の苗



▲薬用作物の栽培に興味がある人を対象に、栽培のための説明会を開催

2～3年目の軌跡

2年目の6月に「みとよ薬用作物栽培研究会」という組織を立ち上げ、栽培情報の提供や会員相互の情報交換の場を作りました。この頃になると広報紙やマスコミ報道を見た方から、生薬作りに関する問い合わせを頂くようになり、栽培説明会を開催すると、多くの皆さんが参加してくださいました。

3年目の栽培者さんは34農家43名と一気に3倍になりました。また、栽培品目に大和当帰とキハダが加わりました。大和当帰は婦人病に用いられる漢方処方に頻用される生薬で、春に苗を植え冬に収穫します。キハダは真っ黄色で苦い内皮を薬用として用いる「薬木」で、苗植えから収穫まで20年ほどかかるのですが、栽培者さんにはその苗木を種から育てていただき、令和4年3月に宝山湖近くの移植地に定植しました。

そして令和4年度は59農家70名の栽培者さんと新たなスタートを切っています。

栽培者さんの数が増えることは嬉しく有難いことですが、何よりほとんどの方が栽培を継続していただいていることが素晴らしいことであり、財産であると思います。

令和2年3月から始まった県立笠田高校と三豊市の連携協定では、薬用作物栽培実験や計測器を用いた栽培データ収集、栽培農家さんでの収穫実習、笠田高校で種を蒔き、比地大小学校で育成し収穫を行う「リレー栽培」などさまざまな事柄に取り組みました。また、笠田高校では除虫菊を種から苗へ育てていただきました。昔は庄内半島や志々島を真っ白な花で埋めつくしたといわれる除虫菊を、リレー栽培の比地大小学校や市内の有志の方に育てていただいております、4月中旬頃から白い花を咲かせてくれると思います。



▲みとよ薬用作物栽培研究所

▶「リレー栽培」では笠田高校の生徒たちと比地小学校の子どもたちに出前授業をしました



▶高校生と一緒に大和当帰の苗を植えました



▲志々島展望台前で育てている除虫菊

これから

この4月から地域プロジェクトマネージャーという大役を拝命しましたが、畑に軸足を置いた活動に変わることはありません。協力隊として活動した3年間で学んださまざまなことの中で心に刻み込まれているのは「成果は畑からしか生まれない」ということです。与えられた条件の中で何ができるのかを、常に考えながら生産者さんとともに歩んでゆく所存です。

生産者さんの拠点となる場所づくりや効率化のための機材の導入、加工設備の設置など課題は山積みしていますが、最も大きな課題は新規の栽培者さんを増やしなが、継続的に取り組んでいける環境を構築することです。今年も栽培説明会を実施しますので、少しでもご興味のある方は一度説明会に足を運んでみてください。また、お問い合わせは随時、農林水産課で承ります。

地域おこし協力隊 活動レポート

平成31年4月に地域おこし協力隊へ着任してから、令和4年3月をもって当初予定の3年の任期を終えました。なお、新型コロナウイルス感染拡大による特例で任期は令和5年3月まで延長されました。

移住当初から温かく受け入れてくださった皆さんへの感謝を込めて、これまでの活動をご報告します。

活動の趣旨

教育を「解くから問うへ」進化させるために活動してきました。今後は、AIや機械のさらなる技術進歩により、与えられた問題を早く正確に解くことの価値は暴落します。これからの時代に必要なのは、何に取り組むか、何をみんなで話し合っていくべきかという「問い」を創り出す力です。

今後も、未来の三豊の創り手を育て、持続可能な地域を作っていくために励んでいきます。

活動報告

活動1 『みとよ探究部』

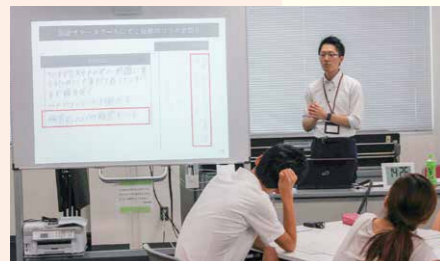
みとよ探究部は、中学生・高校生・高専生が、個人ごとに地域の課題解決や魅力発信に関するテーマを設定して探究するクラブ活動です。市教育委員会の重点施策である「地域探究学習」（地域資源を活用した探究学習）の推進と新たな部活動スタイルの創造のために、令和3年9月から運営しています。具体的には、探究の手本となる地域の大人と一緒に語りながら町を歩く「まちあるき」と、東京や沖縄の大学生によるオンライン・メンタリングを受けながら三豊全体を使って自分のプロジェクトにチャレンジする「マイプロジェクト」活動を行っています。参加生徒には、コミュニケーション力や表現力を身に付け、さまざまな知識を吸収するだけでなく、中高生のうちに三豊のことをもっと広く深く知り、身近にキャリアのロールモデルを見つけ、地域への誇りを感じられるようになってほしいと思っています。



◀プロジェクトの一環である「まちあるき」では、市内の企業を巡りました



▲3月に行われた成果発表会では、自分の学習成果について一人ひとりプレゼンテーションを行いました



▲学校の先生と子どもたちの学習法について研究を重ねました

『教員研修会』

読解力を伸ばす効果的な学習法や、子どもたちが話し合って助け合いながら問題を解決していく学習法、授業でのICTの活用方法などについて、学校の先生たちと一緒に研究してきました。三観地区市教委連絡協議会主催の研修（「チャレンジする教師の国語教室」）や自主研修会で講師を務めたほか、各学校内での研修会には合計32回も招いていただきました。

活動2

活動5 『オンライン学習・一人一台タブレットの活用』

子どもたちがICTを活用して豊かな学びを受けられるように、推進計画や教育方針の策定、アプリケーションの選定と導入、タブレット機器やネットワークなどの環境整備、教員向けの情報発信やICT支援員の充実などの学校現場の支援を行ってきました。特に、オンライン学習による「学びの保障」（誰もがどこからでも教育を受けられるようにすること）や、AIドリル（学習履歴や間違いの様子に応じて最適な問題を自動で出題するデジタルドリル）による「アダプティブ・ラーニング」（子どもたち1人ひとりの学習状況や個性に合った学びを提供すること）に力を入れて進めてきました。



活動4 『国語サマースクール』

令和元年8月・令和2年8月・令和3年10月の3回実施した、中学生向けの国語の集中講座です。東京大学や慶應義塾大学などの大学生が少人数で指導しました。生徒たちは、「みとよメソッド※」によって協力しながら自力で答えを見つけ出していったり、「作戦シール」（上手に文章を読むための思考法が書かれたシール）を文章に貼り、見せあってお互いの読み方を比べたりしながら、対話を中心に学びました。

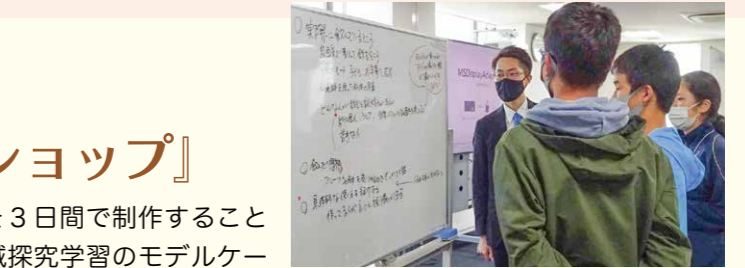
※みとよメソッド……生徒が先生役になって問題の回答例を採点し、その採点結果を持ち寄って自分たちなりの採点基準を作っていく学習法



活動5

活動3 『ふるさとの魅力 探究ワークショップ』

中学生がふるさと納税返礼品のPR動画を3日間で制作することを通じて探究するワークショップです。地域探究学習のモデルケースとして、令和3年3月に開催しました。取材・企画から撮影・編集まで、生徒がゼロからすべて自分たちで作った5本の動画は、市のYouTubeチャンネルやふるさと納税ポータルサイトなどで、市のPR活動に実際に活用されています。



◀動画の撮影では、生徒自身がカメラマンに挑戦しました

▼市のYouTubeチャンネルはこちらから



総集編



地域おこし協力隊
こだま しょうへい
小玉 祥平

▶問い合わせ
学校教育課 ☎73-3131